令和　６年１１月「月　報」

１　はじめに

１０月２５日、首相官邸で「自衛官の処遇・勤務環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する関係閣僚会議（第１回）」が開かれました。議長を務める石破茂首相は「自衛官が国防という極めて枢要な任務に誇りと名誉を持って専念できるよう、万全の体制を構築する」と表明し、年内に対策の方向性を取りまとめて 2025 年度予算案に計上するよう指示されたとのことです。

「防衛力の抜本的強化を真に実現するためには、自衛官の志願者を増やし、士気を維持･向上させ、優れた自衛官を安定的に確保し続ける必要がある。このためには、これからの防衛力の担い手となる世代が、安心して厳しい任務に従事でき、自衛官という職業を選択したこと、現役時代は自衛官であること、退職後は自衛官であったことの誇りと名誉を得ることができるような、令和の時代にふさわしい処遇を確立する必要がある。」との認識の下、「任務や勤務環境の特殊性を踏まえた給与面の処遇の在り方」「自衛隊員として長年にわたり任務に精励した功績に相応しい叙勲等の在り方」「若い世代のライフスタイルに見合った生活勤務環境の構築」「若年定年制における将来不安の払拭の観点から、自衛官としての知識・技能・経験を活かした再就職先の拡充」等が主な検討項目とされています。

１０月１５日に増田会長が中谷防衛大臣を訪ねた際にも隊員の処遇・勤務環境の改善に係る話題に多くの時間を割き、国防に尽くした人材とその家族の誇りや、入隊から退官後を見据えたトータルの人生としての処遇等について、申し上げたところです。今後の改善に大いに期待したいものです。

２　防衛省・自衛隊の活動

（１）１０月２６日、石破内閣総理大臣参列の下、防衛省慰霊碑地区（市ヶ谷）で「令和６年度自衛隊殉職隊員追悼式」が挙行され、自衛隊家族会増田会長が列席し任務遂行中に不幸にして職に殉じた隊員を追悼しました。

今年度新たに３２柱（内局１柱、陸１６柱、海１３柱、空２柱）が顕彰され、警察予備隊以降の累計は２，１１２柱となります。（陸 1,138 柱、海 503 柱、空 439 柱、機関 32 柱）防衛省 HP

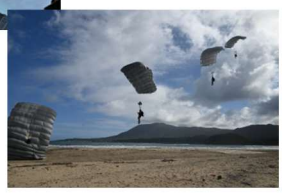
（２）１０月１７日、中谷防衛大臣はベルギー・ブリュッセルで行われた NATO 国防相会議に出席するとともに、各国国防大臣と会談しました。また、19 日にはイタリア・ナポリで初めて開催されたＧ７国防相会合に出席し、各国国防大臣との会談等を行いました。

大臣とルッテ NATO 事務総長

（２） 自衛隊と米軍は、１０月２３日～１１月１日、令和６年度日米共同統合演習（実動演習）を実施しました。この訓練は、強固な日米同盟の下、日米の即応態勢及び相互運用性を向上させるもので、自衛隊施設、在日米軍施設及び区域、民間空港・港湾、奄美大島、徳之島、沖永良部島、我が国周辺海空域等に展開して行われました。

共同統合対艦戦闘・統合防空ミサイル防衛

統合強制進入作戦（空挺作戦、水陸両用作戦）



重要施設防護

統合後方補給・衛生

共同記者会見

３　家族会の活動

（１）　令和６年度　地域協議会を開催

ア　東海・北陸地域協議会：１０月１６・１７日、金沢市で東海・北陸地域協議会を開催しました。各県会長等の他、本部からは荒木東海・北陸地域担当委員が参加し、一日目に「会勢拡大の方策」と、「いかに地方協力本部の募集に協力できるか」等について各県と意見交換を行った後、第６航空団司令兼ねて小松基地司令村上将補の防衛講話「近年の安全保障環境と災害派遣活動」を拝聴し、特に航空自衛隊の災害派遣の実態を感得しました。以降の懇親会では、第１０師団長をはじめ、小松基地司令、金沢駐屯地司令、輪島分屯基地司令、東海北陸各県の地方協力本部長に加え、中部方面総監部から幕僚副長、舞鶴地方総監部からは管理部長にも出席していただき、家族会会員と現職自衛官が話し合うことをメインに、大変楽しくかつ有意義な懇親会となりました。この中では、自衛隊の編成装備が日々変化発展していることが話題となり、また、アトラクションとして金沢駐屯地の自衛陣太鼓や即応予備自衛官・白井士長が日本舞踊を披露してくださいました。

二日目には空自小松基地広報館で小松基地の概要の説明を受けた後、離発着する戦闘機（F15）や民航機を管制塔から見学、F15戦闘機の実機に触れながらの説明やコックピットの説明を受け、最後に隊員食堂で体験喫食して、大変意義のあった二日間の協議会を終了しました。

イ　東北地域協議会：１０月２２・２３日、仙台市で東北地域協議会を開催しました。

各県会長等の他、本部からは道満東北地域担当委員が出席し、自衛隊側からは東北方面総監部人事部長、各地本長等のご出席を得て、「会勢の維持拡大のための方策」「安否確認システム整備完了後の家族支援要領、安否確認以外の要望にどうこたえるか」をテーマに議論しました。会勢拡大では、「加入が当然」との文化を継続している、加入率１００％の能代市家族会（秋田県）の例の紹介や、１年間会費無料の「お試し加入」、短時間の研修の企画に加え、自衛隊側に「記念行事等での**家族会席**を要望する」等、活発な意見が交わされました。また、地本側から「同居の家族を会員にすることが第一歩である。」とのお話があり、自衛隊として隊員家族の皆様に自衛隊家族会への入会を勧めていただくことへの期待大です。安否確認システムに関しては、まずは、システム

を理解し、訓練に参加し、登録数や確認対象等のシステムの制約を理解して、登録されていない人をどうするか等の対応が必要等の意見が出されました。

意見交換会には、東北方面総監、第４航空団司令、東北方面総監部幕僚長、同幕僚副長、近隣部隊長も参加され、会議での話題から地域の状況等、和気あいあいの中にも実りある時間を過ごしました。

（２） 隊員の激励：陸自航空学校宇都宮校の登山走を激励

９月２６日、栃木県自衛隊家族会古橋会長以下北／南宇都宮地区会会員１２名が同校に入校中の第６３―２１９ 期陸曹航空操縦課程学生２０名が実施した、課程恒例の「羽黒山登山走」を激励しました。羽黒山は宇都宮の中心から北２０ｋｍにある標高４５８ｍの山で、競技は羽黒山の麓を出発し約４ｋｍ、標高差２５８ｍの山道を駆け上がり山頂の側に鎮座する羽黒山神社の境内をゴールとして競われます。家族会の他に栃木県防衛協会、隊友会他の団体が、最後の胸突き八丁とも言える社殿下の急坂に陣取り、声を枯らして応援しました。

北宇都宮駐屯地　渉外広報室　提供

この行事が終ると、学生達が待ちわびた中期課程（ＴＨ―４８０Ｂ）による操縦教育が開始され、９ヶ月後のウイング・マーク取得、更に２年半後の３尉任官まで厳しい教育／訓練が続きます。この日の厳しい登山走での頑張りは人生の胸突き八丁を乗り切ってゆく大きな自信に繋がったものと思われます。

（３） 南極観測船「しらせ」寄港支援

10 月４日、四国中央市自衛隊家族会（石村会長）は、四国中央市の三島川之江港で雨の中入港する南極観測船「しらせ」を出迎え、７日の出港見送りに参加する等、寄港を支援しました。今回の寄港では５日、６日の２日間、一般公開が有り、四国４県から市民１万１千８百名余りが見学に訪れました。中高生の関心も高く、学校では中間試験中にも関わらず多数の学生が見学に訪れました。

見学に訪れた市内の中学生は「将来、絶対に海上自衛隊に入隊したい。」と７日（月曜日）早朝の出港見送りも参加していました。

日の丸の国旗を高々と掲げて力強く振る学生に明るい未来を感じました。

（４）厚木航空基地殉職隊員追悼式に参列

10 月１１日、神奈川県自衛隊家族会杉田副会長、大石南関東地域協議会事務局長、水谷大和地区会長、大槻海老名・綾瀬地区会長が海自厚木航空基地で行なわれた殉職

隊員追悼式に参列し、５柱の御霊のご冥福とご遺族のご健勝をお祈りしました。近年益々我が国を取り巻く安全保障環境は厳しさを増し、より実戦的で厳しい訓練や任務に当たる機会が増えることと思われますが、安全に対する意識を常に持ち、任務に当たっていただきたいと思います。

（５）体験航海に参加

10 月１３日、愛媛県自衛隊家族会婦人部の森婦人部長以下１７名が、呉地方隊創隊 70 周年を記念して実施された訓練支援艦「てんりゅう」の体験航海に参加しました。

体験航海には、他県を含め、約３００名が乗艦するなど海上自衛隊体験航海の人気にただ驚くばかりでした。

出身隊員を囲んで記念撮影

呉基地（係船堀）を出発して湾内を周回するルートであったため、残念ながら湾内の反対側にある江田島の幹部候補生学校を見ることはできませんでしたが、途中で護衛艦及び潜水艦を見ることができたこと、若い乗組員の規律正しい態度を見て感動したことに、婦人部会員から体験航海に参加してよかったとの声が多数ありました。なお、今回の体験航海で楽しみにしていた出身隊員３名との面会は、艦長並びに乗組員の皆様による計らいで、体験航海の最後に実現しました。冒頭に森婦人部長から出身隊員を激励した後、出身隊員を囲んで記念撮影を実施し、終了しました。

お世話くださった、呉地方隊、艦長、乗組員並びに自衛隊愛媛地方協力本部の皆様有難うございました。

（６） 八甲田山遭難の旧陸軍墓地の清掃奉仕活動に参加

１０月１９日（土）青森市自衛隊家族会は、明治３５年１月に八甲田山雪中行軍で遭難死した旧陸軍歩兵第５聯隊１９９柱の英霊が眠る青森市幸畑にある幸畑陸軍墓地清掃奉仕活動に参加しました。

当日は地域内に大雨警報が発令となる中、「台風規模の悪天候以外は実行する。」と豪語する青森駐屯地曹友会の気合に先導され、我々家族会も岡部青森駐屯地司令以下駐屯地修親会及び青森県隊友会東青支部と合同により落ち葉や枝の片づけを行いました。作業を開始して間もなく予報通りの雨が断続的に降りましたが、墓苑内の清掃は何年間もの活動のノウハウと各団体会員の情熱により、効率よく行われました。

今年も明治の防人が眠る墓地をきれいにできたことに深い意義を覚えました。

４　事務局からの連絡

（１）　ボランティア保険料の支払いについて

ボランティア保険（令和５年１０月～令和６年９月末）の「保険料請求のご案内」はお手元に届きましたでしょうか？　内容を確認の後、１２月末までにお支払いをお願いします。

（２）　各種希望数の確認について

下記について要望数をそれぞれの時期までに事務局業務担当の梁池へご連絡下さい。

ア　入校・入隊者激励会用「おやばと」（無償配布）

入校・入隊者激励会用「おやばと２月号」希望数を**１１月３０日(木)**まで

イ　北方領土返還要求署名用紙

令和７年度希望数　を　**１１月３０日(木)**　まで

（３）令和６年度「活動状況等調査」の提出について

家族会本第２０号(令和６年４月１７日)にて、令和５年１０月１日～令和６年９月３０日を調査対象期間とし、**令和６年１１月１日(金)を提出期限**としてお願いしております。各県会長・事務局長におかれましては、お忙しいところとは存じますがよろしくお願い致します。

以上